

信用経済における金融政策ルール

広島経済大学 中川 竜一

本稿は、経済主体の合理的行動を前提としたマクロ動学モデルを構築し、最適な経済パフォーマンスの実現に貢献する金融政策の反応関数、いわゆる「金融政策ルール」を検証することを目的としている。

現在、多くの経済学者によって最適な「金融政策ルール」を探し出すという作業が盛んに行われ、金融政策論の重要な分野として確立されつつある。そして、「Taylor rule」と呼ばれる政策ルールが、マクロ経済の良好なパフォーマンスに貢献するという意見が大勢を占めている。

しかし、先行研究のほとんどは、伝統的な IS-LM モデルに準じた枠組みの中で分析しており、金融市場の不完全性や「信用」を通じた金融政策の波及経路の影響を考えていない。

そこで、本章は、先行研究では扱われなかった金融市場の不完全性をモデルに導入し、それによって、金融政策ルールのパフォーマンスにいかなる影響が現れるか、不完全性から発する経済的攪乱に対して、いかなる政策ルールが望ましいかを検証している。

結論として、金融市場の不完全性が存在する世界では、インフレーションにウェイトを置く政策ルールが支持されること、また、資産の移転や金融機関の情報生産能力に関わるショックには、やはりインフレーションにウェイトを置くルールが支持されること、Taylor rule は、生産性に関わるショックに対してのみ支持されることを確認している。